

大きな夢を胸に新たな一歩 踏み出した45人の卒業生

桜のつぼみが膨らみ始めた3月24日、関川小学校で「第6回卒業証書授与式」が行われ、45人の卒業生が晴れの門出を迎えました。

今年の卒業生は小学校統合の年に入学。6年間に関川小学校で過ごしました。学校の先生や在校生、保護者が見守る中、真新しい制服に身を包み入場しました。式では、鈴木政信校長から「たくさんの可能性を持ち、未来を拓くみなさんに、クラーク博士の“少年よ、大志を抱け”の言葉を贈ります。大きな夢や希望を持ちなさいという意味です。お金や出世のためではなく、さまざまことを学び、人としてあるべき姿を求め続けて下さい」とお祝いの言葉が贈られました。

ステージ上で将来の夢を語った卒業生。新たな希望を胸に、大きな一歩を力強く踏み出しました。



関川小学校卒業式



関川中学校卒業式

「愛と夢と感動あふれる学校」 を築き上げた47人の卒業生

春の訪れを間近に控えた3月4日、関川中学校で「第11回卒業証書授与式」が行われ、卒業生47人が思い出の校舎をあとにしました。

式では、山崎明校長が「人生において最も大切なことは夢を持つこと。夢に向かって本気になることが大切です。あきらめない心と気力でみなさんの夢を掴んでください」と卒業生に最後の言葉を贈りました。

また、卒業生を代表して、渡邊寛大さん（下関）が「この1年間、これが最後と意識しながら学校生活、部活動に取り組んできました。かけがえない思い出を作ることができたのは47人の仲間に出会えたからです。これからは、それぞれの道に進みますが、いつの日か笑いあいながら会えることを楽しみにしています」と述べました。

式終了後に行われたはばたきの合唱では、両親や先生に感謝の気持ちを込めて「春風の中で」を合唱し、卒業生それぞれの「ありがとう」を伝えました。



写真提供：ふる里会員 写真家 本田彰男さん(東京都) ▲▼

2月28日、「いで湯の関川ふる里会」の首都圏交流会が東京上野精養軒で盛大に開催されました。

「ふるさとを都市の皆さんに届けよう！」と、昭和58年に発足したふる里会も、今年で33年目。現在では首都圏を中心に会員も328人となり、大勢の方から関川村を応援いただいています。

首都圏会員の皆さんと交流 いで湯の関川ふる里会

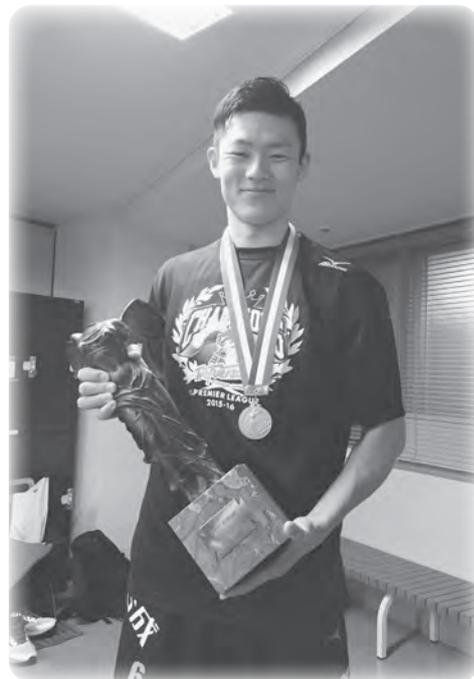
当日は、首都圏在住の会員の皆さん約130人のほか、平田大六村長や近良平議長をはじめとした村関係者も多数参加。懇親会や継続会員表彰、関川村産のしいたげやさといもの詰め放題、豪華景品が当たる大抽選会などが行われ、会員の皆さんと交流を深めました。



2冠
達成!

祝V・プレミアリーグ初優勝

ひろ たか
大島出身 近 裕 崇 選手



▲優勝トロフィーの「ブランデー・トロフィー」を持つ近選手

バレーボールの2015/2016V・プレミアリーグファイナルで、近裕崇選手が所属する豊田合成トrefエルサが初優勝を果たしました。全日本選手権との2冠を達成。

ファイナルの相手は、パナソニックパンサーズ。ワールドカップ日本代表選手が、3人もいる強豪チームに、第1セットを失いましたが、第2、3セットを連取。タイに並ばれて迎えた第5セットは、近選手のブロックポイントなどで得点を重ね、粘るパナソニックを退けました。2010年に入団して、6年目で掴んだ悲願の優勝に、近裕崇選手は、「昨季の悔しさを忘れずにチーム一丸となって準備したことが優勝という結果に結びついて本当にうれしいです」と喜びを語ってくれました。

大学時代にも日本一を経験し、プロの世界でも日本一に輝いた近選手。この活躍に地元後援会の好裕会(こうゆうかい)(伝信男会長)では、祝賀会を計画し、お祝いをする予定です。

関川村で初のプロレス開催

3月19日、村民会館アリーナで関川村では初めてとなるチャリティープロレス(子どものイジメ撲滅プロレス)が開催されました。

会場には、村内外から約500人が集まり、立ち見客が出るほどの賑わいとなりました。

子どもたちとの交流では、保坂秀樹選手が「笑顔と感謝の気持ちを持って、強い子になって欲しい。お父さんお母さん、しっかり子どもを見てあげてください。子は親の姿を見て育つ。一緒にいることが一番大事」とプロレスを通してイジメ撲滅にかける思いを伝えました。

試合の最後には、大仁田厚選手が登場。会場は一気に熱が上がり、電流爆破バットの使用にどよめきが起こりました。

試合終了後には、大仁田選手と会場が一体となり、「1・2・3、ファイヤー!」を決めました。



もう一つの卒業式

～ 放課後子ども教室 ～

平成27年度最後の放課後子ども教室が3月8日に行われ、小学校より一足早く卒業式が行われました。

放課後子ども教室が始まった年に1年生だった卒業生12人。うち4人の児童が6年間通いました。

式では、卒業生一人ひとりが思い出を発表。長野光希くん(6年・上土沢)は、「最初ははじめなかったけど、学年が上がるにつれてみんなと仲良く慣れて楽しく過ごせました。中学校でもいろんなことに挑戦したいです」と発表。

最後には、在校生が作るトンネルをくぐり抜けて、サポーターのみなさんと過ごした放課後子ども教室を卒業していきました。



関川村の輝きを世界に発信！

英語で
村を紹介

～平成27年度キラリと光る地域活性化事業～



キラリと光る地域活性化事業で採択された「Spread the sparkleプロジェクト」(Kaikka English Valley 川崎哲也代表・鮎谷)の情報誌「Sparkle」が出来あがりました。

この情報誌は、知られていない村の魅力を広く海外まで発信することを目的に英語で作成されました。制作にあたっては、編集者の川崎パトリシアさんの他に、5人の高校生と1人の中学生が携わりました。参加した学生が、紹介したい関川村の魅力を提案し、それについて調べ、インタビューを行い、記事を書きました。

編集者の川崎パトリシアさんは、「この情報誌を読んで、関川村の魅力を楽しみに村に来てくれる人がいれば幸いです。そして、この村をふるさとと呼びたくなる人が出れば、大歓迎です」と語ってくれました。

すでに海外に100部を発信していて、川崎パトリシアさんの母校や海外の日本館に置かれています。その他、県内外の自然に興味のある方などに配布、自分の地域の参考にしたいなどの感想が全国から寄せられています。



また、村を紹介する際や英語の勉強の題材にして欲しいという思いから、関川中学校の卒業生にも贈られました。

川崎さんは、「プロの撮影者と仕事をしたことや中高生の思いを知ることが出来て勉強になった。参加してくれた学生たちも貴重な体験ができたはず。まだまだ伝えたい村の魅力はたくさんあるので、次号を作りたい」と意欲的です。

この情報誌「Sparkle」を教育目的のために利用したい場合、または関川村を体験し、村民とつながりたいと思っっている方は、左記アドレスに連絡をしてください。

メールアドレス
sekikawa.sparkle@gmail.com

おらがたでできることを続けよう！ ～自殺防止・地域見守り研修「地域の茶の間」～

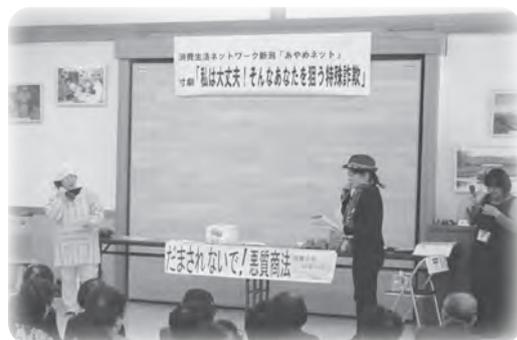
3月4日に開催された「地域の茶の間研修会」で、3月の自殺対策強化月間にあたり、自殺防止の出前講座を行いました。約70名が参加。

地域の茶の間では、以前から自殺防止について研修を重ね、「おらがたにできることを広めよう」と各茶の間で実践してきました。

人とのつながりを大切に、挨拶や声掛け、心配な時は相談できることなどを広めています。



茶の間には仲間がいると再確認する参加者



今回の研修会で参加者は、「できる事を続けよう」と、地域の茶の間がもつ役割と、継続する大切さを再確認していました。

午後からは、特殊詐欺や悪質商法の被害から高齢者を守るため、「消費生活啓発講座」を消費生活サポーターグループ「あやめネット」の皆さんが詐欺事例などを寸劇で紹介。4月から始まる電力小売全面自由化やマイナンバー制度にかかわる詐欺などの悪質商法を紹介。きっぱり断る重要性を呼びかけました。